



## 保二小の矜持

No. 6

西東京市立保谷第二小学校  
校長 神山 繁樹

【Back to the basics 自分を見つめ直す】シリーズNo.2

“いきぬく” 心力の熟成

教育目標 「思いやりのある子」 を見つめ直す

## 1 文字と言葉から捉える物事の本質



『思いやり』と辞書を引くと、まず、「思いやること」とあります。そこで、“思いやる”の意味を調べると以下の通りです。

- ① 思いを馳せる。遙かに思う。
  - ② 押し量る。推量する。
  - ③ 人の身を押し量って、同情する。
  - ④ (「-られる」の形で) 良くない状態になるのではないかと案じられる。心配である。
- そして、再び『思いやり』に戻ると、
- (i) 思いやること。想像。
  - (ii) 気の付くこと。思慮。
  - (iii) 自分の身に比べて人の身について思うこと。相手の立場や気持ちを理解しようとする心。同情と、あります。
- また、“思いやる”の「やる」を漢字で書くと「遣る」。“思いやる”に通じる意味としては、
- (ア) 思いを晴らす。
  - (イ) 物事を行う。はかどらせる。
  - (ウ) その行為が遠くまで及ぶ。

こうやってみると、「思いやりのある子」を育む意味深さを感じます。

例えば、①からは、「心の中を穏やかに流れる深愛の情を感じながら生きていきたいなあ。」

(iii)からは、「人の身について思うことができるように自分の身をしっかりと鍛えておくことが大事だな。」

(ウ)からは、「自分の思いやりが、相手の心の奥まで、その人の長い人生にも影響を与える可能性があるのだな。」

と、自分自身がどう在るべきか問答することができます。

## 2 「自分の軸」をもつ

2学期、保二小の教職員が重点的に心がけるキャッチフレーズ及び子供たちを指導するキーワードは、

◎心を込めて 心を伝えよう ◎心を開いて 心を受け容れよう です。

私達は毎日、子供たちと対峙しながら、常に一人一人の心の動きや子供が発した言動の背景にある心を読み取ることに努めていきます。

子供たちには、常に「自分の心の有り様」を意識して考え、判断し、表現できる資質・能力を育成し、自己肯定感を高めていきます。

学校便りに書いた「自分の出番」を知ることとリンクするのですが、子供たちが「自分の軸」となるものを見付けたり、育てたりすることができる保二小教育を一層推進します。

なぜならば、自分の軸があるからこそ、「心を込めて 心を伝えること」ができ、自分の軸を確固たるものにしたい願いがあるからこそ「心を開いて 心を受け容れること」ができるからです。

## 3 保二小の矜持 ～最後に、校長自慢を！～

◎教職員；先週2学期が始まる前から環境整備、会議、研修会、授業の準備を計画的にこなしました。特に、若手教員が講師となった研修会、ベテラン教員が指導方針を語った会議から、“教育のプロ”としての心意気を皆で共有し、初日、全員による挨拶隊で子供たちを迎えました。

◎保護者・地域の方々；夏の花壇整備。2学期初日から登下校見守り隊、虐待防止外部委員会に参会いただき、皆様の協同・協働意識を強く受け取ることができました。いつも感謝・感謝です。特に、保護者の皆様。夏休み中の生活リズムや“学びとしての遊び”を大事にいただいたおかげで、子供たちは初日からスムーズに学校生活に溶け込みました。流石です！そして、育成会、ホニホニおやじの会による「校庭オープンイベント」。その“思いやり”精神に感謝するとともに、皆様の心意気に敬意を表します。保二小の子供たちは幸せです！！